

学的研究/年輪による古気候の復元的研究/年輪年代法による白頭山巨大噴火年代の解明/広域遺構探査法の開発研究/東アジア古代の庭園遺構の比較研究/常時微動測定による古建築の構造に関する研究/木・石造文化財の経年変化に関する研究/有機質遺物の材質分析とその保存処理法の開発研究/劣化写真のデジタル画像による復元/全国不動産文化財情報システムの普及流通に関する研究/文化財情報ネットワークにおける通信法の研究/遺跡地図情報システムの開発研究/南アジア仏教遺跡の研究/唐代壁画の技法的研究/陶磁器文化の交流に関する科学的研究/日韓古代における埋葬法の比較研究

埋蔵文化財関係情報処理の現状 奈文研ホームページに対するアクセスは、1ヶ月2000件を越えるところまで増加してきている。一般からの関心の高まりに対応できるよう調査部から発掘調査速報のデータをいただき、すみやかな掲載に努めている。所内向けのデータベースについても、インターネット対応への準備を進めている。出土木製品のデータベースなどについては利用できるようになってきている。

全国不動産文化財情報システムの現状 近年、発掘調査報告書は内容の要約にあたる抄録を備えるようになってきている。整備を進めている遺跡データベースにこのデータを盛り込む作業を開始し、1995年度分より順次入力作業を進めている。その他、種々の遺跡地名表や遺構・遺物の一覧からもデータの入力を行っており、有益な情報の蓄積を図っている。

年輪年代法による八ヶ岳大崩壊の年代解明 長野県北部を流れる千曲川流域には、砂層に覆われた平安時代の遺跡がいくつも確認されている。この砂層は、「仁和四年」の八ヶ岳(稲子岳)大崩壊によって発生した泥流が千曲川に流入し、下流域まで氾濫したものだといわれている。実際、現地を調査すると千曲川沿いの各所でヒノキやスギの埋没樹幹を発見することができる。目下、河内普平教授(信州大学教育学部)と共同で年輪年代法に最適なサンプルを探索し、暦年代確定に向けての研究を進めており、遠からずその年代は明らかになるであろう。

金属製遺物の保存科学的的研究 金属製遺物における金鍍金の色調を定量化するための基礎実験をはじめた。鍍金層は各種の要因が影響して微妙に色調が変化することが知られている。今回は予備実験として双六古墳から出土した馬具類のクリーニングを終了した遺物などを用いて、分光測色計による反射スペクトルのデータを収集した。その結果、分光スペクトルの特性にはあまり変化がみられないものの反射率にその差が認められた。(工業普通)

埋蔵文化財センターの研究活動

埋蔵文化財センターにある6研究室と情報資料室、および各研究員がそれぞれの課題を定めて進めている研究があり、多くは前年から継続しているものである。1998年度には次のものがある。これらのうち、いくつかについてその内容を紹介しよう。

縄文編年の学的研究/古代地方末端官衙遺跡の研究/古代豪族居館遺跡の研究/動物遺存体による生業活動の復元的研究/遺跡土壌の微細形態